

## 日本色彩学会推薦図書 (第3号)

書名 色彩心理学入門

著者 大山 正

出版社 中央公論社  
〒104 東京都中央区京橋2-8-7

新書判 235頁 定価760円

本書は新書版での色彩心理学の入門書である。しかし、著者が心理学の研究者であるが為に、色彩心理学の入門書との題名をつけたが、内容的には色彩心理学に限らず、広く色彩学の入門書としてもよい内容である。その内容はニュートン、ゲーテの色彩研究の紹介に始まり、ドールトンと色覚異常研究の話へと続く。次に色覚説が取り上げられ、更にフォン・クリスの二重視覚説を取り上げ錐体とかん体の話を紹介している。従来の色彩の本にはあまり取り上げられていない動物の色覚の話は著者の研究分野の広さを示すものである。「色の強度と明るさの感覚」の章では心理学者としての知見が遺憾なく発揮されている。「色を数字で表す」では難解であるCIEのシステムを初心者に概念を伝えることに苦心していることが伺われる。「カッツと色の現象学」の章では最近カラーマネジメントシステムで問題とされている色のモードの問題が色の恒常性も絡めて説明されている。「色の効果」と「色の感性」の章では著者の実験データを基に色彩科学に今後取り入れるべき色彩と感情の問題が広く扱われている。

以上のように本書の内容は多義にわたり色彩学の問題を扱っており、これから色彩学を学ぼうとする人にとっては恰好の入門書であると共に、心理学的立場が明確に現れているので、心理学以外の立場で色彩学を扱っている研究者にも心理学的色彩学の立場を理解する為の恰好の書である。

(慶応義塾大学 鈴木 恒男)